

社会福祉法人 山麓会 令和4年度事業報告

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響は大きく各事業所で感染が確認されました。従業員は3日に1度、在宅のご利用者はご利用時に抗原検査を実施し感染予防に取り組んでまいりましたが、感染力が強く、従業員、ご利用者共に複数感染が確認されました。従業員は出勤停止、ご利用者は医療機関へ入院ができずに施設内療養となった事で、介護する従業員も順に感染が確認され少人数で業務に就くことになりました。従業員は何度も心が折れそうになる程に苦しい思いの中、終息にむけ取り組んでくれたのは感謝しかありません。このような状況の中、ご利用者の受け入れの縮小や停止した事、原油価格の高騰による物価の上昇もあり厳しい状況でしたが、前年度と比べプラス収支になりました。要因としては、受け入れの判断を適時おこなった事で施設・在宅共にご利用者増になりました。又、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業として、かかり増し経費（感染予防に係るアルコールやガウン、マスク等）に対しての補助金申請ができた事、業務改善として、集金代行システムの導入、給食会社変更、設備改修として、電気錠改修工事、ヒートポンプチラーの導入により物価の上昇や電気代の高騰に対して対応ができました。

人材の雇用に課題が残る1年になりました。採用者は正社員6名、非常勤22名（厨房10名、技能実習生2名 留学生4名含む）退職者は正社員7名（定年1名含む）非常勤5名（定年2名、技能実習生終了2名含む）求人募集をしても新規採用が進まない中、定年退職者が増となっています。非常勤雇用（外国人労働者含む）が増え、正社員雇用は難しい状況ですが、外国人の留学生や技能実習生が介護福祉士を取得した事で非常勤から正社員として活躍しており、今後も計画的に外国人雇用を進めていく事が求められます。

3施設を拠点として密にならないように配慮しZOOM研修を行いました。

開催日	研修内容	参加人数
4月25日	感染症予防対策研修	16名
5月16日	マナー研修	15名
6月24日	コーチング研修	15名
7月22日	指導・幾瀬力研修	12名
8月29日	看取りケア研修	15名
9月21日	ハラスメント研修	14名
10月19日	高齢者虐待防止・身体拘束禁止の基本	15名
11月21日	認知症ケア研修	20名
12月15日	コミュニケーション研修	10名
1月27日	コミュニケーション研修	12名
3月20日	看取り・緩和ケア研修	15名

※月に1度、専門講師のZOOM研修を実施するも新型コロナウイルスの影響もあり、前年度に比べ参加人数が少なくなりました。令和5年度は少人数で開催日も複数日にして実施していきます。

新型コロナウイルス感染症や物価高騰の中、一人ひとりの従業員が対策を講じよく頑張ってくれました。経営面では厳しい状況が続きますが、令和6年3月末のくすのき広域連合の解散が近づいており、引き続き慎重に計画的な対策が必要になっています。

【消防訓練報告】

訓練内容	実施日
防災訓練 (通報訓練・避難訓練・ 消化訓練・「水消火器使用」) 【消防署職員派遣】 火災・夜間想定	8月(清滝・南野・雨塚)
自主防災訓練 (避難訓練) 地震	10月(清滝・南野・雨塚)
自主防災訓練 (避難訓練) 火災・日中想定	3月(清滝・南野・雨塚)

【法人全体会議及び委員会報告】

内容	実施日
安全衛生委員会	第2金曜日
特養入居判定会議	毎月第1水曜日
給食会議	毎月第3水曜日
広報委員会	毎月第3水曜日
人権研修	9月10月2月
人事考課会議	12月
運営会議	4月.11月.2月

特養部門

【生活相談員】

《結果》

医療機関からの問合せに早期対応する事で、医療機関との繋がりを構築できたが、各事業所の入院等からの退所スピードに入居が追い付かなかった。

各種申請はデーターを残す事で、申請作成をする際に役立つ事になったが、各事業所の状況に合った新たな加算取得に繋げる事にいたらなかった。

《行動報告》

- ① 送迎等の時間調整を行い、外回りが難しい時は電話対応を行った。
- ② 医療機関からの依頼に早期対応を行い、退院期間までに面談を行い入居に繋げる事で、医療機関との関係性を築く事ができた。
- ③ 相談員間で申送りを行い、不在時でも即対応ができた。今後も連携強化に努める。
- ④ 施設見学対応や早期面談は行えたが、問合せ件数が減っている。事業所回りをしてご利用条件や空室状況について引き続き情報提供をおこなっていく。
- ⑤ 申請データーを残す事で、申請作成に役立てる事ができたが、各事業所の状況に合った新たな加算取得には至らなかった。

【生活相談員】

《結果》

単月でも満床に至る事は出来ず目標未達成。

《行動報告》

- ① 外回り強化を行い、新しいケアマネへの挨拶などで知名度の向上に努めた。
- ② 内部での情報共有の強化を図るも、勤務の入れ違いなどによる情報共有に問題点があり課題となる。
- ③ 外部との連携についても情報共有不足もあり遅れてしまう事もあったため、早期検討を行う。
- ④ LIFE の加算取得に向け委員会に出席しユニットリーダーへ指導を行う。

【ショートステイ生活相談員】

《結果》

新型コロナウイルス感染症が蔓延するなかでもショートステイ利用の需要はあり、新規契約、緊急受け入れの増加があった。感染対策や利用に当たっての留意点を説明、ご利用者、ご家族のご理解をいただいた上、西2丁目ユニットの感染対策予防を徹底し通常通りの受け入れを行えた。緊急な利用に対しても、ほぼ受け入れをした。利用率は前年度を上回らなかった。原因として西2丁目ユニットでの感染、特養での感染によるショートステイ受け入れを中止したためと、ご利用者、ご家族からの利用見合わせがあったためである。

《行動報告》

- ① 実績報告を居宅事業所へ直接持参をし、利用中の様子の報告を行い、現在の空き状況や特養入居のご相談の対応をおこなった。
- ② ショートステイとデイサービスの職員で互いに情報共有を行った。その事により日中と夜間の様子がわかるようになり、サービスの継続性が可能になり、ケアマネージャーやご家族との情報共有ができた。
- ③ 利用の問い合わせの丁寧な対応、出来る限り調整し緊急の受け入れを行うことで、居宅ケアマネージャーとの関係性の構築、信頼を得た。
- ④ 面会ができなかったため、ショート利用のご家族には日常の様子を報告した。新規契約時には見学希望が多数あったが、面会も中止していることを説明し、ホームページの案内、場合によって

はタブレットを持参し西2丁目ユニット内、施設風景をご覧いただき法人を紹介した。

- ⑤ 丁寧な対応を心がけ、また、時間の許す限りご利用者、そのご家族の話を傾聴し、信頼関係作りを行った。

栄養部門

【管理栄養士】

《結果》

給食会社が変更となり、食事形態や食数の変更がこれまでよりシビアになった中、義歯の破損などによる食事形態の変更、退院時や急なショートステイの入所など、できる限り柔軟に対応できた。介護報酬の改正に合わせた対応、自己研鑽については時間を取ることが難しかった。

《行動報告》

給食会社が変更となり、これまでとは異なる給食運営体制となった。給食会社の選定や、運用開始までの打ち合わせ、厨房職員を法人で直接雇用することになり、その労務管理などこれまで経験のない業務を行うこととなった。

施設栄養士間だけでなく、厨房職員との連携もこれまでより必要となった。連絡ノートや LINE のオープンチャット機能を使用し、情報共有を行えた。厨房内でも新型コロナウイルス感染症の感染者が出たが適切に対応、給食提供も途切れることなく行えた。給食会社が変更になったことにより、行事食への対応がこれまでより困難になったが、各事業所の行事で食事を提供する際には協力体制をとることができた。

清滝だけでなく、南野・雨塚の厨房業務や毎日の食事の発注、消耗品の管理などに追われ、担当者がユニット会議に参加ができない日があった。会議以外の場面で他職種とコミュニケーションを取り栄養管理を行うことができた。栄養ケアマネジメント強化加算の取得に向け、必要な体制を整えていきつつあったが厨房業務に追われ、時間を取ることができなかつた。徐々に四條畷保健所管内給食施設連絡協議会の活動も活発になってきており各研修や情報共有の場に対面で参加することができ、他施設の管理栄養士とコミュニケーションをとることができた。

特別養護老人ホーム 清滝らくらく苑

【介護支援専門員】

《結果》

ご利用者、ご家族、職員、施設運営の4つの視点を持って質の高いサービス提供を目標に掲げました。新型コロナウイルス感染症が蔓延するなか、施設内でご利用者と職員の感染、ご利用者の入院先でも感染が確認され、十分な目標には至らなかった。

《行動報告》

- ① 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、ご利用者、職員の両面の視点で、ケアの構築、胃瘻の方だけのユニットを作るなど、介護ストレス軽減、業務の効率化図り、職場定着を目指してきました。定年退職や一定の離職があり、残業が多くなり、介護現場の負担が多くなってしまった。
- ② ご利用者との関わりを持ち、心身の状態に変化が生じていないか、新たなケアのニーズや事故のリスクが発生していないか情報把握に努めた。事故に伴う入院が7件発生し、改めて、安全対策

の機能の見直しが必要になった。

- ③ 介護職員、管理栄養士、看護師と連携し、身体的、精神的健康に努めてきました。ただ、地域の医療体制の変更に伴い、褥瘡のⅢステージの受け入れ病院がない状態。その為、入退院を繰り返す、ご利用者がいました。今後は、地域の医療体制の変化を踏まえた、スクリーニングが必要になった。

【主任】

《結果》

リーダーを中心としてユニット会議や担当者との意見交換を行った。また内部研修を通じて職員の知識を深めるなど、介護技術や知識の向上に努めた。

《行動報告》

- ① ご利用者の ADL を確認しながら、担当者の意見を聞く機会を作り、集まった情報を各部署、各ユニットで共有し安心した生活を送っていただけるように取組んだ。
- ② ユニット会議等でご利用者の個々に対しての援助が行えるように意見を出し合い、話し合った結果を各ユニットや各部署に伝達し、より良いケアの提供につなげる事ができるように取り組んだ。

【医務】

《結果》

新型コロナウイルス感染症によるご利用者の入院はなく、ご利用者間での感染拡大は防げたが、職員への感染拡大が見られた。

指導看護師が法人全体で5名となり、介護職員の喀痰吸引研修の現地研修をおこなった。

《行動報告》

- ① 熱発や体調の変化時などはなるべく早期に嘱託医や病院受診に繋げることができていたが、予測不能な転倒による骨折や食事時の事故による入院が通年より多く見られた、事故防止に対する意識を高めていくと同時に心肺停止時の対応(AED 使用・心臓マッサージ等)が介護職員でも行えるように努めていく。
- ② 日常の標準予防策や個人防護具取り扱いが緩い職員が見受けられたため、今後感染予防対策委員会を通して指導していく。
- ③ 施設、在宅の看護師が情報共有できた事で、在宅サービスご利用者の円滑の受け入れがおこなえた。又、喀痰吸引研修は在宅看護師の協力も得られた。

【西2丁目】

《結果》

職員の人事異動があったが、ショートステイご利用者のケアや状態の変化について、しっかりユニット職員と連携することができ、相談員に報告して対応に努める事ができた。

《行動報告》

- ① ユニット職員による新型コロナウイルス感染により、2度ショートステイを封鎖する期間があっ

たが、施設全体に感染を広げることなく適切な感染対策の対応ができた。

- ② ユニット職員の異動や退職。新型コロナウイルス感染症による封鎖期間があったことにより、中々食事関連のユニット行事を計画・実施することが出来なかった。

【東3丁目】

《結果》

ご利用者のADLの低下や、精神面の変化など、状態の変わったご利用者が数人おられたが、ユニット内ではご利用者の状態の変化に対してのケアの変更や対応など、日々検討して意見を出し合うことができ、その時の状態に適した対応を模索することができた。行事やレクも定期的を実施し、ご利用者に喜びや楽しみを感じてもらうことができた。

《行動報告》

- ① ご利用者の誕生日の食事会や、季節ごとのイベントの食事行事の計画を立て、職員にも行事を通して、ご利用者に喜んで頂く事のやりがいを持ってもらうことができた。ユニット会議や日々の業務の中でも、職員同士で意見交換をする事ができた。
- ② ご利用者の状態の変化に合わせて、ユニットの内の設えや席の配置を変更する事が多かったが、ユニット職員としっかり連携を取ることができ、試しで席を変えた際は、その後の様子はどうかの報告・検討を行う事が出来ていた。ユニット費にて花やぬいぐるみ等も購入し、生活の質を上げるように努めた。感染対策においてもユニット職員が感染に対する意識を高めながら業務に取り組んできた。
- ③ デスクやメールボックスを新しく購入し、整理整頓は改善できた部分もあったが、物が出しっぱなしになっている事が時々あるので、職員全員が整理整頓を心がけるようにする。利用者にケアにおいても、問題や疑問があればお互いに意見を出し合い、さらに他部署とも意見を織り交ぜながら利用者の支援に取り組んできた。

【西3丁目】

《結果》

ユニット職員全員で協力し合う事が出来た事により、ご利用者に穏やかな日常の継続を提供する事が出来た。

《行動報告》

- ① ユニット会議は勿論、日頃から職員同士でコミュニケーションを密に行う事により、ご利用者に穏やかな日常の提供に繋げる事が出来た。
- ② 感染対策、事故対策をしっかりと行う事により、感染症や事故が発生しても慌てる事無く、速やかに対応する事が出来た。
- ③ ご利用者の入院者、退所者は出てしまったが、その要因をユニットでしっかりと話し合い、早期発見、早期対応に繋げる事が出来た。

【南3丁目】

《結果》

ユニット内で必要な物品について相談し、導入していくことで働きやすさやユニットの環境整備つなげることが出来た。

《行動報告》

- ① 居室や共同スペースの清潔維持については日々の清掃で維持することが出来た。ご利用者の衣類や居室内の物品の整理を業務の合間に進め、居室内の整理整頓が出来た。
- ② 前年度よりご利用者の入退所や、ご利用者様のADLに変化があり対応を検討する事が多かった。ユニット職員間でユニット会議の時以外も話し合い、対応を決めて行くことが出来た。
- ③ ご利用者が日々喜びを感じ楽しく過ごして頂けるよう、ご利用者の希望に沿ったレクリエーションや行事を開催する事が出来た。日々の取り組みとしては、好きな歌を聞いたり唄ったり、体操等、身体を動かす機会を設ける事で元気でハツラツとした笑顔を多く見られるようになった。

【東4丁目】

《結果》

ご利用者の病状に早く気が付き、病院受診へ迅速な対応が行えた。

日々の日課でテレビ体操動画を視聴し職員と一緒に体操をおこなうことをご利用者、職員共に笑顔が多くみられるようになった。

《行動報告》

- ① 申し送りノートや、業務中の会話を通して、ご利用者の些細な変化を職員間で共有できた。
- ② ご利用者との日常生活援助の中で多くの会話を持つ事で、信頼関係が築けた。
- ③ 職員間でコミュニケーションを取る事で、ご利用者に適した補助具やクッション等を用意し快適に過ごして頂ける手助けが出来た。

【西4丁目】

《結果》

職員は、人事異動や技能実習生の入職もあったが、しっかりとコミュニケーションをとる事ができた。ご利用者は入院、病気の進行などがあり退所者も多くあった。

《行動報告》

- ① 掃除は遅出者の最終の共同スペースの掃除、各居室の床掃除や食後の掃除もこまめにできていた。ご利用者同士関わる時間をつくれるよう職員が間に入るなどしてコミュニケーションをとっていただいた。理解するのが困難になってきている方もおられ不穏になられる事もあった。
- ② ご利用者の入退所が多くあったが、申し送りノートやメモを随時使用し同じよう支援ができるよう努力した。
- ③ ブログの投稿を意識し行事時はよい表情を撮影し投稿できた。日常でも携帯を持っているご家族に様子を送ることもできた。コロナ期間中で全体行事の範囲はせまく出来ない事もあった。

【南4丁目】

《結果》

ご利用者と職員が日々の会話の中でコミュニケーションを取ることができ穏やかな表情をされることが多くみられ、安心した生活を支えることができた。

事故を未然の防ぐ事ができない場面もあり、安全のための配慮が多少不完全な面があった。

《行動報告》

- ① ご利用者の状態に合わせて、座席や、デスクや棚の配置換えを行い、環境整備をおこなった。
- ② チームワークを強調し、自分の役割を果たしてやりがいにつながるようにできた。
- ③ 多職種連携は申し送りノートやフロア連絡帳を活用し、情報共有に繋がったが、確認が不十分なこともあった。
- ④ 内部研修の情報をファイルにしたり、解らない事に対しての資料を作成し、日誌に綴じたりし、目を通せるように工夫し、ご利用者のケアについても意見交換をできる環境を作った。介護職員としてのスキルアップにつながるよう取り組むことができた。
- ⑤ ご利用者の余暇活動は、YouTube を活用した。個人個人に対する余暇活動は、試行するも ADL の低下や精神面の変化があり、意思疎通が困難なために、希望に添えなかったこともあった。

【委員会・勉強会・会議報告】

委員会名	開催日程
事故対策委員会 毎月開催	第3月曜日 6月・12月 勉強会
身体拘束廃止委員会 5月・7月・10月・1月・3月 開催	第4月曜日 7月・1月 勉強会
高齢者虐待防止委員会 6月・12月・3月 開催	第4月曜日 3月 勉強会
褥瘡予防委員会・感染予防対策良委員会 5月・7月・10月・1月 開催	第3水曜日 5月・10月 勉強会
行事委員会	第2木曜日
特養会議	第1金曜日
リーダー会議	第4水曜日
西2丁目ユニット会議	第2土曜日
東4丁目ユニット会議	第2金曜日 (13:30~14:45)
南3丁目ユニット会議	第2金曜日 (14:45~16:00)
西4丁目ユニット会議	第2水曜日 (13:30~14:45)
西3丁目ユニット会議	第2水曜日 (14:45~16:00)
東3丁目ユニット会議	第2月曜日 (14:45~16:00)
南4丁目ユニット会議	第2月曜日 (13:30~14:45)

【行事報告】

	全体行事	ユニット行事等（適宜）
4月	花見行事	
7月	七夕行事	
8月	納涼祭	誕生日会
9月	敬老会	カラオケ大会
12月	クリスマス会	食事行事
1月	正月行事	書初め
2月	節分行事	
3月	ひな祭り	

地域密着型介護老人福祉施設 南野らくらく苑

【介護支援専門員】

《結果》

ご利用者との信頼関係構築に努めているが、居室で過ごされる時間が多いご利用者とのコミュニケーション不足を感じており今後の課題。ご家族とは面会時や電話連絡の際に近況報告や相談をさせて頂き信頼関係を築いている。

令和4年度の離職者は定年退職者を除いて1名の自己都合であった。

《行動報告》

- ① サービス担当者会議を開催することでニーズの把握に努めることができた。新型コロナウイルス感染予防のため、ご家族にはサービス担当者会議に参加して頂けなかったが、パーテーション越しの面会再開により面会されるご家族も少し増え、その際に直接お話が出来る機会が増えた事で、ご家族へ相談をさせて頂き、ご家族の希望を聞かせて頂く事ができた。
- ② 多職種との連携は意識して行っている。ご利用者、ご家族への報告や説明はその都度行えている。
- ③ 離職者は減っている。今後も職員の定着と新入職員が育っていく環境を整えていく。

【主任】

《結果》

3つのスキル（業務遂行能力、良好な人間関係を築く能力、概念化能力）を活用して、結果として、数字では表すことが出来ないが、職員満足度としては教育、指導や意見交換などコミュニケーションが以前に比べると取れており、職員同士の関係性には効果があった。それにより、ご利用者へのケアの質や対応などに変化が生じ、ご利用者満足に繋げていくことが出来た。但し、細かい部分での申し送りや伝達ミスなどはあり、円滑に進まず業務に支障が生じたこともあったので、今後の課題として取り組んでいきたい。

《行動報告》

- ① 教育者に指導の一任をし、教育していくことで自分自身の成長に繋がった。新入職員や異動職員については、指導者を1人にする事で戸惑いや困惑といったことがなくなり、学んで、成長することができたが、留学生や技能実習生については、言葉（日本語）の指導がいき届かず、今後の課題となる。
尚、内部研修については、より多くの職員に参加していただけるように配置することができ、学びと知識向上に繋ぐことが出来た。
- ② 法人の想いや伝達事項を的確に伝達することで、間違った情報や噂話などに発展することはなかった。また、職員同士のコミュニケーションが円滑にいくように間に入ることで、大きな亀裂などには至らず、比較的良好な関係性を保つことができた。
- ③ 全体を俯瞰的に見ることにより、問題に対し、すぐに対処することが出来たが、全てが解決できた訳ではない為、1つひとつの問題点に対して、もう少し深掘りしていく必要があった。

【医務】

《結果》

新型コロナウイルス感染症の影響で受診が困難となり対応に苦勞した。新型コロナウイルスの感染者が発覚してからの感染対策の甘さから1ユニットの蔓延に繋がってしまった。他事業所の医務間での連携を図り情報の共有に努めた。

《行動報告》

- ① 各部署との連絡・相談を行いご利用者の日々の状態を把握し、異常の早期に発見に努め、コロナ禍ではあるが早期受診・早期回復を図った。

【うめ】

《結果》

ご利用者個々の身体的・精神的な事情に寄り添い、施設が「安心して暮らせる場所」として認識していただけるように配慮しながら、職員同士がより良いケアを目指して話し合うことができ、その実現に協力し合うことができた。

また、ご利用者個々の特性に応じたレクリエーションや作業をして頂くことで、活動的な生活を提供できたが、ご利用者によっては、いまひとつ「できる自分」を充分に感じて頂けなかったように思う。今後の課題としたい。

《行動報告》

- ① 日常の些細な動作であっても、ご利用者に出来るところはして頂くことで、主体的な生活を送っていただくことに繋がった。
- ② お手伝いの依頼やゲームの進行係またはゲームへの参加、カラオケなど、ご利用者の能力にあった活動の場を提供し、楽しみながら「できる自分」を感じて頂く事が出来たが、ご利用者によっては、常により高度なお手伝いの依頼を望まれ、期待に沿うことが難しいこともあった。
- ③ 四季折々の行事に合わせてユニットの内装や装飾を施し、また敷地内屋外の散歩や花摘みなどを通して、ご利用者に四季の変化を楽しんで頂けた。

- ④ 申し送りノートの活用により、ご利用者の日々の変化に素早く対応出来た。
また、他職種との連携にも役立てることが出来た。

【さくら】

《結果》

ユニット職員同士の連携、報告、連絡、相談をしっかりと行い、事故や感染症が発生しても、事故対策、感染症対策の徹底を行う事が出来た。

《行動報告》

- ① ユニットリーダーを真とし、ユニット職員同士が報告、連絡、相談、助け合いをしっかりとおこない、職員自身が将来入りたいと思うユニットに繋げることができた。
- ② 事故や感染症が発生しても、それを無駄にすることなく、事故対策、感染症対策の徹底をおこなう事が出来た。
- ③ 担当者の役割を職員 1 人 1 人が理解し、リーダー以外でも、リーダーシップを発揮して、ご利用者それぞれの個性に合ったケアを提供する事ができた。

【もも】

《結果》

その利用者一人一人に合わせた介護の環境作りや、その人らしさを出して頂けるような支援の在り方をユニット内で話し合いを行いながら提供をすることができた。転倒事故が何度か起きてしまったことがあるも、その後の事故再発防止の為の対策をしっかりと行い利用者を第一とした介助・支援を行うことができた。

《行動報告》

- ① 居室の配置や、危険な箇所の保護等、職員間で話し合いを行いながらご利用者にとっての環境作りを提供することができた。転倒事故が起きる場面があり、今後もそういった事故が起きないように試行錯誤を繰り返しながら介護を実施していく。
- ② 職員同士でのコミュニケーションや申し送り等はしっかりと行うことで、職員同士でのトラブルを避け、穏やかな状態で安心できる職場環境を作ることができた。
- ③ 誕生日や定期的に行事を行うことで、普段とは違った食事・雰囲気を感じて頂き喜んで頂くことができた。その際も、職員間で連携を図りながら、買い物・調理と役割を分担し協力しながら楽しく実施することができた。

【委員会・勉強会・会議報告】

委員会名	開催日程
事故対策委員会 (勉強会)	毎月第 2 水曜日 (8 月・2 月)
身体拘束委員会 (勉強会) (高齢者虐待防止委員会) (勉強会)	毎月第 4 水曜日 (7 月) 6 月・1 2 月 (3 月)

感染対策委員会 (勉強会)	6月・7月・10月・1月 (4月・10月)
褥瘡委員会 (勉強会)	9月・3月 (11月・5月)
特養会議	第1金曜日
リーダー会議	第1金曜日
ユニット会議(うめ・さくら・もも)	第2月曜日・第2木曜日・第2金曜日

【行事報告】

	全体行事	ユニット行事等(適宜)
4月	花見行事	
7月	七夕行事	
8月	納涼祭	誕生日会
9月	敬老会	カラオケ大会
12月	クリスマス会	食事行事
1月	正月行事	書初め
2月	節分行事	
3月	ひな祭り	

地域密着型介護老人福祉施設 雨塚らくらく苑

【介護支援専門員】

《結果》

自宅で過ごす事が困難な方々の生活を支えて行く事が、地域密着型施設としての大きな役割と捉え、自宅とは異なる「施設」と言う整った環境の中で生活していただく事が、ご利用者やご家族へ「安心・安全・安定」を提供することとなり、その責務を果たせるよう努めました。

その結果、1年間で新たに特養入居された方が11名、ショートステイをご利用された方が25名(複数回含む)でした。今後もこの地域で、必要とされる方々に頼られる施設を目指し、地域の高齢者施設としての役割を果たして行けるよう努めます。

《行動報告》

ご利用者の現状に沿った介護が行えるよう、毎月のユニット会議で、各ご利用者の介助内容を検討し話し合った結果、介助内容を見直し、日々の介護に活かすよう努めています。

事故対策委員会を通して、職員各人の事故に対する意識の向上に努め、同じような事故が起きないように対策を講じ、未然に防ぐことで事故を減少する事ができました。

介護サービスの質の向上と科学的に裏付けられた介護の実現を目指し、厚生労働省が進めているLIFE活用の導入に向けて準備を進めています。

来年度、くすのき広域連合が解散され、住み慣れた地域で暮らす事が、更に価値ある生き方として

見直される事になります。今後も職員全員が地域で頼られる施設を目指して日々精進します。

【主任】

《結果》

新型コロナウイルス感染状況の中、ご家族との接点が少なかった為、職員の言葉遣い、生活空間の環境整備、ご利用者に耳を傾ける等と言った、基本的な接遇マナーに欠ける所が見受けられた。また、ユニットリーダーが中心となり、新入職員が独り立ちするまでのスケジュール作成を行ったことで、職員の育成が効率よく進み、業務を進めることができた。

《行動報告》

- ① 施設で過ごされるうえで、ご利用者と職員がお互いに安心感を得る為に、特に認知症の方が抱える問題についての対応が上手く向き合えず、問題解決に至らない事もありましたが、認知症の方を理解しようという姿勢は、向上していると感じられた。
- ② ユニット間で部署の関係なく職員同士お互いが、協力しようという体制作りが自然とできた。それによりチームワーク意識が強くなり、ユニットの体制づくりに繋がった。
- ③ 個人での役割は果たせていたが、これがチームでの役割となると他人任せになることもあり、チームで結果を残せることが少なかったように思う。

【医務】

《結果》

ご利用者で新型コロナウイルス感染者が、一人も感染する事がなく感染予防に努める事ができた。コロナ禍の関係で、熱発者に対して、病院側の受け入れ困難が多かった。

《行動報告》

ご利用者の体調面を常に把握し、異常時受診が必要か、職員と連携を取り早期に対応をし、ご利用者の負担を少しでも軽減する事に努めた。

【すみれ】

《結果》

リスクを恐れ、ご利用者の安全を優先しようとした結果、ご本人のADLを早いペースで落としてしまったケースがあった。今後はリスクとニーズ、QOLのバランスを取った、正確な分析をおこなって行きたい。また、ご家族との報告相談は適宜行ってきており、ご家族がケアの輪の中に加わっている状態を作ってきた。

《行動報告》

- ① 会議時に関わらず、リスク分析を常に行い、ご利用様の現状把握に努めてきた。
- ② ケアに対する提案等はご家族に常に報告し、出来るだけご家族の意見を貰ってから動くようにした。結果、ご家族との関係構築には努めてきた。
- ③ ご家族のニーズ等は、職員に発信していたが、それでもリスク対策のほうに傾向が寄ってしまった。

【れんげ】

《結果》

安全面に配慮したことで、自立支援に至らないことがあった。職員間の連携では、報告、連絡、相談を何度もお互いに声かけしたことで、24時間、業務を繋げていくことができた。また、四季折々の飾りつけで、共同スペースに彩りを添えることができた。

《行動報告》

- ① ご利用者の体調不良があれば、すぐに医務や多職種と連携を取ることができた。ご家族にも情報共有することで安心して頂けた。
- ② 共同スペースに四季を感じていて頂けるように、ご利用者と共同で作成した貼り絵や飾り付けをすることができた。
- ③ 事故防止を心掛け対応していたが、皮膚の弱い方は、内出血を繰り返すことがあった。大きな事故にならないように、事前対策をしっかりと行っていく。

【あやめ】

《結果》

ショートステイ利用時に対応の不備が見受けられた。各職員がマニュアルの手順を覚えていない、またはマニュアルを確認しないで対応にあたった。今後はマニュアルを見ながら、ショートステイの対応にあたるよう徹底し、対応に不備が無いようにする。

季節ごとに彩や行事、ユニット行事を開催し、単調にならない日常を送れるよう努力できていた。ご利用者のADL低下もあり、歩行可能なご利用者の転倒・転落事故が多発していた。

帰宅願望等のあるご利用者に対しても、意思を尊重して過ごしていただき、自由に行動していただくように努める事ができた。今後は行動制限等にならないようにしながらも、事故をどれだけ防止できるかが、課題になる。

《行動報告》

- ① ユニットの飾りつけが単調にならないよう、季節によって飾りつけを変更した。
- ② ボールやカラオケなどのレクリエーションや誕生日会などでの特別な行事を去年より華やかになるよう努めた。
- ③ 自身で歩行される方の転倒・転落事故が見られる部分があった。ご本人の自由を尊重しつつ、事故等を減らせられるように、各職員からの提案を実行に移す必要がある。

【委員会・勉強会・会議報告】

委員会名	開催日程
事故対策委員会 (勉強会)	毎月第2火曜日 (8月・2月)
ユニットケア推進委員会	毎月第3火曜日
身体拘束委員会 (勉強会)	毎月第4火曜日 (7月)
(高齢者虐待防止委員会)	6月・12月

(勉強会)	(3月)
感染対策委員会 (勉強会)	6月・7月10月・1月
褥瘡委員会 (勉強会)	9月・3月 (11月・5月)
特養会議	第1金曜日
リーダー会議	第1金曜日
ユニット会議(あやめ・れんげ・すみれ)	第2・3・4金曜日

【行事報告】

	全体行事	ユニット行事等(適宜)
7月	七夕行事	
8月	夏祭り	誕生日会
9月	敬老会	カラオケ大会
12月	クリスマス会 餅つき	食事行事
1月	初詣 正月行事	
2月	節分行事	
3月	ひな祭り	

デイサービスセンター 清滝らくらく苑

＜結果＞

- ① 介護保険事業所に求められる適切な運営管理の徹底を図った。
- ② ご利用者一人ひとりに合った機能訓練の計画及び実施をすることにより、日常生活に必要な機能の減退を防止する機能訓練を提供した。
- ③ 法人内外を問わず、関係機関及び他事業所との連携のため、生活相談員が通所系事業者連絡会、大東四條畷医療・介護推進協議会 四條畷認知症ワーキングチームにも参加した。
- ④ 職員一人ひとりの接遇向上と、施設内研修に参加しスキルの向上を図った取り組みは、コロナ禍のため十分な研修の時間を作れなかったが、毎月第2月曜日にデイ会議は開催した。
- ⑤ ご利用者のニーズに沿った行事や、地域・社会交流の機会を企画したかったが、新型コロナウイルス感染予防のため地域との交流は実現できなかった。
- ⑥ 毎月利用実績を居宅介護支援事業所に手渡しで届け、「体験利用パンフレット」「体験利用申し込み票」を持参し事業所のサービス内容について説明した。
- ⑦ 認知症カフェ(らくらく-DA カフェさんろく)の再開で、地域包括支援センターとの繋がりが増し緩和型サービスご利用者が増となった。

【生活相談員】

《行動報告》

- ① 介護職員の介護技術向上、スキルアップのため、可能な限り施設内研修へ参加できるよう人員の配置を調整し、また夕方のミーティングの時間内で短時間の介護技術実演など実施した。
- ② 看護主任が全部署の看護職員のシフト作成をすることで、デイサービスと特養との連携が密になった。
- ③ 職員が働きやすい職場、やりがいのある仕事と取り組めるよう、また、離職0を目指し適宜面談を実施。休憩時間等でコミュニケーションを図りご利用者のケアや、業務についての悩みを傾聴し、職員みんなで解決できるよう、デイ会議に議案として取り上げた。

【年間行事報告】 コロナ禍のため、第3日曜日の行事は中止とし、平日の午後から実施した。

	年間	月間
4月	お花見	《行事・各種活動》
5月	未実施	・誕生日会
6月	未実施	・体重測定（毎月）
7月	七夕笹飾り	・ボランティア慰問は全部中止
8月	納涼祭	《会議・研修会》
9月	敬老会	・ミーティング（毎日）
10月	運動会	・デイ会議（毎月）
11月	干支うさぎの置物制作	・給食会議（随時）
12月	クリスマス会	・各種委員会（随時）
1月	新年会（書初め・福笑い）	・研修会（随時）
2月	節分と雛飾り制作	
3月	ひな祭り	

ヘルパーステーション清滝らくらく苑

《結果》

医療・介護制度改革の方向性にあげられる「施設から地域へ、医療から介護へ」とあり、在宅での介護、療養が重要視されてきている中、訪問介護事業を行う上で、ご利用者が可能な限り、その在宅において安全・安全で自立支援・重度化防止に資する質の高いサービスを提供する事が出来た。地域で信頼できる事業所を目指すため、施設内研修等の参加でヘルパーのスキルを向上し、専門職としての自覚を持ちご家族や関連機関との連携を図りながらチームケアに努める事が出来た。

《行動報告》

- ① サービス提供以外の時間にも訪問をして説明を行うことで、ご利用者、ご家族に介護保険制度を理解していただくことができ、自立支援に向けた援助につなげることができた。

- ② ご利用者に対して、どのヘルパーも同じサービスができるように、ご利用者ごとに担当のヘルパーでミーティングを行い、情報共有やサービス内容の見直しを行った。
- ③ 身体介護、看取り介護の積極的な受け入れにより、他事業所からの依頼サービスが増えた。
- ④ 他事業所、関連機関との連携、事業所連絡会等の積極的な参加は、コロナ禍により行えていなかった。
- ⑤ 介護技術向上の為施設内外の研修への積極的な参加は行う事ができなかった。
- ⑥ ご利用者の連絡や報告を速やかに行い、共通理解ができ、質の高いサービスを提供する事ができた。
- ⑦ ヘルパーが安心して働けるよう意見や悩みを聞き信頼関係を築いていった。
- ⑧ 事業所回りをして、空き状況のチラシを配布した。
- ⑨ 自立支援事業所内での有償運送サービス・自費サービスとの連携を上手く図る事が出来た。

《勉強会・会議報告》

年間研修報告		月間計画
4月	利用者の緊急時・命を救う為の対応	《会議》 ・ヘルパー会議（第3火曜日） ・ヘルパー研修会 ・ヘルパー事業所連絡会（偶数月第3火曜日） ・在宅全体会議 ・施設内研修 《行事・各種活動》 ・認知症カフェ ・地域行事への参加(11月27日小楠公手作り市)
5月	介護職員の為の感染対策	
6月	暴走ヘルパーへのアプローチ	
7月	高齢者虐待	
8月	中止	
9月	中止	
10月	ボディメカニクスとは	
11月	身体拘束禁止の基本	
12月	認知症の特徴及び認知症ケア	
1月	中止	
2月	ヘルパーができるケアのポイント	
3月	アンガーマネジメントと介護の関係	

ケアプランセンター 清滝らくらく苑

《活動結果・取り組みの報告》

- ① 新型コロナウイルス感染症での影響については落ち着きつつあり、介護支援専門員の更新研修や主任介護支援専門員研修、主任介護支援専門員更新研修も無事に終わることができた。
- ② 介護保険法「自立支援・重度化防止の取組」の実現に向けた地域づくりに強化を意識し、ご利用者やご家族に寄り添い、ニーズに対する課題分析やアセスメントに努めた対応を行った。
- ③ 新型コロナウイルス感染症では、市内全域でクラスターの発生なども起こっていて、感染予防を強化し、業務の追加等に柔軟に対応した。
- ④ 新型コロナウイルス感染症に影響で研修会などのWeb開催も慣れてきてこれまでと変わらないようにスキルアップを図った。

- ⑤ 毎週1回の居宅介護支援事業所内会議を行い、日常的に事業所内で『報告・連絡・相談』ができるように努めた。
- ⑥ 常にコンプライアンスを意識し業務あたった。
- ⑦ 在宅会議では他部署と意見交換を図った。
- ⑧ 特定事業所加算Ⅱや初回加算、入退院連携加算、入院時情報提供加算など加算の取得に努めた。
- ⑨ 行政や地域包括支援センターからの支援困難な事例にも積極的に引き受けることができた。
- ⑩ B C P策定など視野に入れた業務継続計画や個別避難計画作成のために研修会に意識して参加し、次年度の準備を行った。

自立支援事業 さんろく

【認知症カフェ】

≪活動結果・取り組み報告≫

- ① 認知症カフェについては、新型コロナウイルス感染症の影響で7月と8月は中止したが、他月は感染対策を取りながら開催することができ多く、の参加者が喜ばれた。
- ② 地域で行われた「手づくり市」に認知症カフェで作成した手作り小物を出品し参加した。手作り小物を多くの方が手に取っていただき、認知症カフェを周知する機会となった。
- ③ さんろく内では、地域支援事業の集いの場づくりでの主催団体に場所の提供は継続した。
毎週水曜日にステップアップ体操「元気クラブ」
毎週火曜日にカラコロ体操、カフェ「むつみ会」

【福祉有償運送】

≪活動結果・取り組み報告≫

有償運送（自家用有償旅客運送）第79条の更新手続きをおこなった。引きつづき、要介護・要支援者等が単独で公共交通機関を利用して移動する事が困難な人を対象に通院、買い物等を目的に施設の車両を使用して有償で送迎を行い、社会貢献に努め、地域でも認識されるようになり、依頼も増えている。

【自費訪問介護事業所】

≪活動結果・取り組み報告≫

介護保険での訪問介護サービス以外の日常的な困りごとへの相談をうけ、通院や散歩、買い物、庭掃除等提供することができた。